

令和元年度 4

児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
①暴力行為の状況等	年度当初、粗暴な言動をする事案があったため、当該児童および保護者と話し合い、改善を図った。現在は落ち着き、教育活動への支障はない。今後も、引き続き教職員全体で組織的に対応する。
②いじめの状況等	学校全体でいじめの未然防止と早期発見、早期対応に取り組んでいる。いじめを認知した時は、迅速に情報共有のうえ、対応し、解消している。 スマホやLINEなどによるトラブルが低年齢化しているため、保護者対象の学習会や子ども向けの出前授業を実施した。困った時は、すぐに相談できるよう、温かい雰囲気ของ学級、学校づくりを大切にしていける。
③小・中学校における不登校の状況等	不登校とともに、遅刻の増加、固定化が課題になっている。学級担任をはじめ多くの教職員で本人と保護者へ働きかけるとともに、区のこどもサポートネットなど関係諸機関と連携して、登校支援をねばり強く進めている。